

キャラクター名 _____ プレイヤー名 _____
ノーラ

メインクラス	アコライト	Lv.1:		レベル	1
サポートクラス	メイジ	Lv.1:	メイジ	性別	♀
称号クラス				年齢	18
種族	フェアリー			境遇	没落
出自 (効果)	邪妖精			目標	復讐

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	7	5	12	9	10	11	8
ボーナス	2	1	4	3	3	3	2
クラス修正	0	1	0	2	1	2	0
他修正							
能力値	2	2	4	5	4	5	2

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	ライトメイス	至近	-1	5	0	0	0	0	0
左手	ラウンドシールド		0	0	0	3	0	-1	0
頭部									
胴部	クロスアーマー					3			
補助									
装身具	聖印								
能力値			2	0	4	0	5	8	7
スキル									
その他									
総計(右)			1	5					
総計(左)			2	0					
総計(両)									
ダイス数		2 d	2 d	2 d					

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	4			4	+ 2 d
トラップ解除	2			2	+ 2 d
危険感知	4			4	+ 2 d
エネミー識別	5			5	+ 2 d
アイテム鑑定	5			5	+ 2 d
魔術判定	5			5	+ 3 d
呪歌判定	5			5	+ 3 d
鍊金術判定					+ d

気の向くままに妖精の里を出て、ヒーリングの街に行った際、子供が泣いていたのでどうしたものかと困っていたところ、それを見た大人たちはあなたが子供を泣かせなどと思い込み、石を投げて追撃し、追い出した。

それ以来あなたはエネミーとなって彼らに仇を成すようになった。

しかしまあ、あなたがどれほど暴虐をしようとも逃げだしも反撃もしないプリーストと出会い、しばし交流するようになった。その者は自らが吸血鬼であり、しかし太陽神の加護をもつたがために妖魔に人間になりきれないと笑いながら語った。

いつしかその吸血鬼と仲良くなり、アコライトにあこがれたあなたは心を入れ替え、新人冒険者がよく通りかかる森で、無料で治療を行なうようになった。するとどうだろう。その小さな慈善活動は認められ、あなたは神の加護としてフェイトを取得したのだ。

あなたとその吸血鬼は嬉々として、さらに対策に精進した。しかしそんな日々は長く続かなかった。あるとき、近くの街の防衛網が魔族によって突破されたのだ。多くの人々がそこで命を落とし、僅かに生き残ったものは森に逃げ込んだ。吸血鬼とあなたたちは彼らの怪我を治療していたが、パニックになっていた彼らは日

頃彼女達に怪我を治してもらっていたことも忘れ、訴えた。

「その吸血鬼が街の衛兵の入れ替わり時間教えてんじゃないかい？」

「そういうえばあの妖精、前に冒険者を襲っていたぞ！」

彼らの恐怖と不満はあなただと吸血鬼に注がれた。一歩、また一歩と彼らは歩み寄る。そのときである。魔族の軍勢が森にまで来たのだ。

隻眼のオルネウスが率いるレラライエ及びバフォーメットの舞台が差し迫っていたのだ！

左か右(に)、一悲劇の瞬間左か右、左か右の左か右かね、風土左か右の吸血鬼が、その子供左か右、心臓左か右かの左

何が起きたか理解できなかった。ただ吸血鬼は淡々と、「その子を連れて逃げるんだ」と呟き、そのまま動かなくなった。あなたは一心不乱になって吸血鬼が命がけで守った子供の手を握り、ただひたすらに逃げ続けた。羽が痙攣し動かなくなるほど飛んだならば、その小さな足で走り続けた。1日中、いや一週間以上ただ走って逃げ続けた。あるとき、ハッとして後ろを振り返ってみると、そこに子供の姿はなかった。あるのはあなたが握っていた小さな腕だけで、それは噛み千切られたかのように、柔らかいハサツでした。